

資料 4

中野市社会教育委員の昨年度までの取り組みについて

	ページNo
増田 正明 委員長	1
阿部 恵子 副委員長	3
唐木 敏行 委員	4
仮屋 慶一 委員	6
阿部 浩子 委員	7
藤澤 重徳 委員	8
丸山 弘子 委員	10
高野 美紗 委員 (活動情報誌「地域・人・かかわりを求めて」)	11

調査研究方針

増田 正明委員長

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
本市における令和元年度～4年度までの研究調査（「生き生きと輝く若者たち～青少年・若者の孤独・孤立を考える～」）の発表活動が主たる活動でした。
令和6年9月11日（水）「長野県社会教育研究大会」＜長野県総合教育センターにて＞
※参加者が多く、急遽全体会場（講堂）に会場を変更して行われました。
—当日の意見交換会における討議の柱—
○中野市の発表をもとに「みなさん自身で語る」
①「あなたにとって働きやすい職場」とは？
②「あなたにとって居心地のよい社会」とは？
—討議終了後の感想から（ごく一部）—
・私自身、長年サラリーマンとして経験してきたことを話しながら討議できてよかったです。
やはり経験から風通しの良い職場や挨拶ができる職場がポイントになると思いました。
・行きつくところは人と人との気を使いすぎない関係性、困っている人を支える体制かな、と思いました。
—会終了後の感想から（ごく一部）—
・中野市の事例はとても分かりやすかった。また非常に興味深く刺激的な発表でした。新たな視点として考えていきたいと思いました。
・就労訓練事業は社会とつながりにくい若者にとって本当に大切な事業だと思いました。
少子化がさらに進み学歴格差や不登校の増加など、教育の課題について社会教育委員として取り組んでいくことは重要なことだと思いました。
・地区役員や民生委員、福祉担当者など多くの関係機関の方々とかわりをもち、社会教育委員として動くことが大切だと思いました。
※令和6年12月20日（金）「中野下高井・飯水校長会」＜中野下高井教育会館にて＞
令和5年度発表の全国小中学生不登校数34万人超という、増え続ける
「不登校問題」にかかわって、小中学校のときに不登校だった生徒の卒業後、どんな歩みをしているのか？
そのわずか一事例だがその事実を示し、学校現場でも考える機会に

してほしい・・・
そんな思いから発表会を設けさせていただきました。
会終了後、「普段あまり聞けない子どもたちの将来の現状を知れてよかった」
「貴重なお話が聞けて役に立った」などの声が聞かれました。
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
テーマ「つながり」にかかわり
①若者、高齢者などの社会的な孤立にかかわる研究調査をさらに深めたい。
②社会教育活動を進めていく上で、ネットワークづくりをどう進めていくか？

調査研究方針

阿部 恵子副委員長

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

[illegible]

調査研究方針

唐木 敏行委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
※ 社会教育とは学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動を指します。
学校の立場として、児童生徒と地域住民のつながりについて報告します。
やや社会教育とは言えない部分もありますが、地域住民の立場から考えると、自身の教育活動ともいえる部分があると考えています。
社会教育活動への地域住民の参画・協働の促進
○ 防犯
小中学校児童生徒の登下校中の見守りとして、地域住民に見守り隊を委嘱し、防犯活動について地域住民の協力を得るようにしている。
○ リニューアルした市立図書館
市立図書館職員の協力を得て、リニューアルした市立図書館をPRしようと中学校の2年生図書委員が、視察と100冊程の本を借り入れて帰校し、視察報告をしたり、生徒に貸し出しを行ったりした。
○ P T A 活動
資源回収年間2回(小学校7月、中学校9月)少子化に伴い柳沢地区では地域住民による回収ボランティアも恒例になっている。
○ 小中学校ボランティア・環境整備
コミュニティスクール委員や地区回覧を通じてボランティアや環境整備をお願いし、地域住民の協力を得ている。
・ 中学校敷地内樹木の剪定、草刈、バス停付近の歩道の除草
・ 小学校学習支援(家庭科調理実習・ミシン、書道・書き初め、クラブ活動講師、水泳授業見守り)
○ 公民館活動
小中学校と公民館の連携が進んでいる。今後の利用拡大として、不登校・不適応児童生徒の中間教室・居場所としての施設利用について探り始めた。
・ 文化祭でのステージ発表・作品展示、学校だよりの掲示、学校敷地内で収穫したギンナン販売、休日・長期休業中の体育館・図書館利用
○ 高社中学校体育館施設利用
高社中学校の体育施設利用状況は高く、生涯体育の面からみても運動に親しむ市民が多い。課題は中学校部活動の地域移行が令和9年4月に実施されるので、運動や文化活動に親しむ市民等から、中学生の指導に関わって

くれる指導者・サポーターが出てきてくれることを期待している。
体育館【年間使用】登録団体：9団体
・ 月曜日：ブラスト（バスケットボール）
・ 火曜日：中野VBC（バレーボール）
・ 水曜日：高社中男子バスケットボール（社会体育）、市役所バスケットボール部
・ 木曜日：中野VBC、中野フレアバドミントンクラブ
・ 金曜日：NBC（バスケットボール）、PLUS+α（バスケットボール）
・ 土曜日：市役所バスケットボール部、ブラスト、中野VBC、クラブチーム翔（バレーボール）
・ 日曜日：たかやしろV. C（バレーボール）
○ 小体育館【年間使用】登録団体：2団体
・ 平日：中野市体育協会卓球部
・ 日曜日：高社卓球クラブ
○ 武道場【年間使用】登録団体：3団体
・ 木曜日、日曜日：北部剣道教室
・ 不定期：中野剣道連盟、中野市剣道スポーツ少年団
○ 運動場
・ 不定期：NEVIES（ソフトボール）、中野ゴールドウイングス（ソフトボール）
越ソフトクラブ（ソフトボール）、四ヶ郷ソフト（ソフトボール）
北間長瀬公民館（地区球技大会）、東笠原公民館（区民交流会）
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
○ 防災
近年の地震・自然災害における避難に対応し、小中学校では、大地震対応避難訓練として、建物内避難訓練（外へ避難しない）や引き渡し訓練を実施したり、中学生全員がAED講習を毎年受けている。今後の可能性として、地域住民と一緒に、避難所設営訓練、非常食・炊き出し訓練等について、実施に向けて検討していきたい。

調査研究方針

仮屋 慶一委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
私は、NPO法人北信州体操クラブで代表兼指導者として子供達に体操指導を行っております。また、社会教育委員として、各小学校のコミュニティスクールの事業として体操指導、NPO法人んぱーむぼいすの子供向け体操指導にも携わらせていただきました。
今年度は私自身のスキルアップを目標に、地域のコーディネーターである社会教育士になるため大学で履修しました。社会教育の理論や実践方法について学び、特に生涯学習の重要性や地域との連携の在り方について深く理解を深めました。具体的には、社会教育計画の立案方法やファシリテーション技術、住民参加型のプログラムの設計について学習し、実践的な視点を養いました。
また、社会教育実習をNPOで行い、地域の特性に応じた教育活動の工夫を学び、多様な主体と協働する力を身に着けることができましたと思いました。
この学びを活かし、実際の現場で貢献したいと考えています。
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
大学で生涯学習を学ぶ中で、学芸員の役割に興味を持つようになりました。
博物館や美術館は、単なる展示の場ではなく、地域の文化や歴史を学ぶ貴重な学習の場であると気づいたからです。学芸員は資料の収集・保存だけでなく、社会教育普及活動を通じて人々に学びの機会を提供します。特に、子どもから高齢者まで幅広い世代に向けた学習支援に魅力を感じ、生涯学習と学芸員の仕事は密接に関わっているからです。今後さらに理解を深め、専門的な知識を身に着けたいと考えています。

調査研究方針

藤澤 重徳委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
・「つながりと多様性」について考えるという調査研究の方針にどれだけ沿うものになったかは判断できませんが、以下のような勉強会に参加して、自身の研鑽を深めるとともに多様な経験を持つ方々との交流に努めました。
1) 10月20日(日) 木島平村防災講演会
石川県珠州市狼煙地区区長の糸屋敏夫さんから震災の体験をお聞きした。
地区内で日頃から密にコミュニケーションを取り合っていることに
加えて、地域おこし協力隊を経て移住定住したまちづくり会社の職員である馬場千遥さんが地区内の被災者のケアにかかわるだけでなく県外に避難した住民の帰還に努めたことなどをお話いただいた。地域防災力を高めるためにも地域に足りないところを補ってくれるようなスキルを持つ若者の移住促進が大切になってくると感じた。
2) 12月23日(月) 私のアクション! 未来のNAGANO創造県民会議
急激な少子化に歯止めをかけて地域の活力を維持、向上させるためには行政や企業、地域住民それぞれが今までの常識にとらわれることなく行動変容をすすめていくことが必要であるとして設立された県民会議に参加した。
「県民会議でこれから取り組みたいテーマやアクション」を考えるトークセッションでは「教育・意識改革」をテーマとするグループワークに参加したが、「若者や女性が頑張りたいて思っても、古い考えに阻まれることがある」ため、「大人の意識を変える学びの場を作りたい」といった意見が出て、多くの参加者の共感を得た。
3) 1月26日(日) 中野総合学科新校地域ワークショップ「まちの未来について話そう」
2050年に中野市がどんなまちになってほしいのかを創造し、ポジティブな視点から地域と高校教育について考えるワークショップに参加した。中野地域で唯一の高校となる総合学科新校には「まちの未来」を担うことになる有為な人材を育成する役割が期待されているため、地域住民の1人としてどのようなことができるのかを考えたいと思っている。グループワークでは徳島県の神山まるごと高専のような専門性の高い教育内容で県外からも意欲ある生徒が集まる高校をめざすべきではないかと自身の考えを述べた。
4) 2/15(土) 長野上水内教育会主催「哲学対話Ⅲ」
哲学対話にとりくむ梶谷真司さんの指導で、グループで一緒に問い、語り

合うことで文章が自然に書けるようになる「対話的文章法」を体験した。
「今年いちばんのできごと」をテーマにしてそれぞれが考えたプロットに
たいして他のメンバーが次々に質問をし、その質問をふまえて書く内容を
膨らませていくというグループワークを体験したが、自分の中にある未整理
で雑多な情報を他者から質問してもらうことで他の人に伝えるために必要な
情報に転換することができるという、たいへん有意義な学びであった。
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
本格的に始動した生成ＡＩに対応する学びを社会教育と学校教育の壁を超越
する形で創り出すことが喫緊の課題として求められる中で、梶谷真司さんの
「対話型文章法」などを参考にして、ＡＩにはできないとされている「考える」
ということに焦点をあてたワークショップのようなものを企画して実践
したいと考えています。
また、人口減少問題への対応の１つとして「高校教育の魅力化」のとりくみに
ついてさらに学びを深め、中野総合学科新校への地域住民のかかわり方など
を念頭に置き、「教育・意識改革」をテーマとする未来のＮＡＧＡＮＯ創造
県民会議でのマイ・アクションを長野県下各地の有志の方々と交流を深めなが
ら展開していきたいと考えております。

調査研究方針

丸山 弘子委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
大切な役目を頂きながら、なかなか活動できずに申し訳なく思っております。
様々な講演会に個人的にも参加させて頂く中で、人間関係が希薄になっている
今、どのようなコミュニティをつくれば、人と人とがつながっていけるかと奮闘
されている方々がいらっしゃる事を知り、私が今できる事は何かと考えました。
私は今、市内小学校で子どもたちに関わる仕事についていますが、色々な家庭
環境で育ち、性格も容姿も学力も違う子どもたちが健全に成長していく為に毎日
みます。
しかし、どんな子どもどんな人にも必ず素晴らしいところがあり、そのことを
認めたたえていくことが、人と人とのつながりを深めていく第一歩だと感じてい
ます。
目の前にいる人を大切に思う事が、自然にできるよう私自身も努力していきたい
と思います。
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
何もわからないまま2年の任期を終えることとなりました。
子を持つ母親として、また、教育にたずさわる身として、日々、積極的に人に
関わることを心がけていきたいと思います。
何もできず本当に申し訳ありませんでした。沢山のことを学ばせて頂き、あり
がとうございました。

3 中野市

中野市社会教育委員について

1 委員の構成

学校教育関係者 1名 社会教育関係者4名 家庭教育関係者 1名

識見を有する者 2名 公募委員 2名 合計 10名

・任期は、令和5年5月1日から令和7年4月30日までの2年間

2 令和5年度中野市社会教育並びに生涯学習活動実績

・中野市社会教育委員会議 2回(5月、3月(予定))

・北信地区社会教育委員連絡協議会総会・地区研修会

参加

・長野県社会教育委員連絡協議会総会及び講演会

参加

・長野県社会教育研究大会

参加

・地域ぐるみの共育フォーラム兼北信地区社会教育研究大会

参加

3 活動報告

今年度の社会教育委員の活動を振り返って

～社会教育委員としての“genteN”の取り組み～

中野市社会教育委員 高野美紗

私が社会教育委員として任を賜り、早2期となります。その間以前より個人で取り組んでおります県の「信州子どもカフェプロジェクト」に賛同し、始めた『お宮カフェ』の運営を2022年からさせて頂いております。それまでは、社会教育委員という活動を知らずにこのこどもカフェをやってきたわけですが、委員として携わらせて頂く中で、他市町村の委員の方々の活動や取り組みを知り、自身の活動が社会教育活動として機能している事を実感できました。

また、自身の活動を通して、運営する立場から他の活動や運営者の方々の懸念や課題が同じ目線から感じ取ることができ、それが自身の活動においてとても糧となりました。



さて、『お宮カフェ』の活動についてですが、今年で3年目を迎えます。これまで多くの方々の御理解、御協力、御尽力を頂きこれまで毎月休むことなく開催して頂くことが出来ました。活動を通して感じることは、“人との繋がり・温かさ・感謝”です。その前提としてあるのは、“生きたコミュニケーション”だと思います。私一人では正直ここまで続けるのは困難だった活動も、様々なコミュニティの場を通して人との繋がりを頂き、そこから派生し、また出来上がったコミュ



ニティで運営させて頂けており、大変ありがたく思います。

そして、3年目となった今後の目標や課題として、今ある繋がりを大切にしながら、「参加者同士のコミュニケーションや運営サイドと参加者とのコミュニケーション」、「他事業者様や企業様との新たな繋がり」、また当初より場所提供等で大変お世話になっている「自治体とのより深い相互理解と協力関係の構築」に尽力して行きたいです。さらに今年は、新たなこどもカフェの設置運営を計画しており、そちらの準備もこれまでの活動と並行しながら進めて行く次第です。

『お宮カフェ』の活動と並行して、昨年末、中野市生涯学習推進講座におきまして、自身が上映実行委員として関わらせて頂いております、環境問題についての自主製作映画『マイクロプラスチックストーリー〜ばくらが作る2050年〜』の上映会を開催させていただきました。多世代の方々にご参加頂き、大変有意義な上映会となりました。社会教育委員と上映実行委員の両方の立場として、双方の関係者の皆様に感謝すると共に、ここでの繋がりからさらにまた別のコミュニティへの繋がりが生まれたことに、genteNとして大変嬉しくありがたいと思います。

最後に、自身の活動の屋号である“genteN”という言葉の意味についてですが、どんなことにも始まりはあります。物事を進めるうちに必ず躓きや目的・目標を失いかけてしまったりしますが、その時に戻る場所が、“原点”だと思います。そこから、活動を始めたきっかけを見失わない為に、常に“原点”を忘れずにしたいとの想いと、“元気”になれる“点”＝スポットから元と点を取って、“genteN”としました。

2つの活動を通して、今回改めて genteN の活動の意味やこれら活動を始めて、この屋号にしたことが良かったと改めて痛感しました。